



風

山脇 岳志

ワシントンから

知人に薦められ、日本から取り寄せた本がある。

「オバマ大統領がヒロシマに献花する日」。共同通信でワシントン支局長などを務めた松尾文夫さんが6年前、世に問うた。

松尾さんは11歳のとき、疎開中の福井市で米軍の空襲にあう。郊外に逃げて命拾いしたが、同じ小学校に通う26人の学友が亡くなった。

以来、「アメリカ」にこだわってきた松尾さんは20年前、ひとつのニュースに衝撃を受ける。ドイツのドレスデン大空襲50周年の追悼式典で、米英の軍幹部も参加し、格調高く和解が宣言されたことである。

松尾さんは「日米はなぜ、このような儀式ができないのか」と痛切に思う。

「21万人の広島・長崎の原

戦後70年 広島に花を 真珠湾にも花を

爆犠牲者や夜間無差別爆撃の死者を弔う意味でも、米国の大統領が広島に献花してほしい。「日本は、首相が『真珠湾の花束』で応えてほしい。日本の奇襲攻撃の犠牲になった戦艦アリゾナ号の記念館で献花してもらいたい」

松尾さんは、そう提案している。

◇

この春、安倍晋三首相が米国を訪れる。戦後70年という節目で、首相がワシントン以外にどこに立ち寄るのか、歴史についてどう語るか、注目が集まっている。

一方、「核なき世界」を目指すオバマ大統領は、広島訪問に意欲を示したことがある。だが、米国では原爆投下は戦争終結のために必要だったと考える人が今も多く、大統領の広島訪問のハードルは決して低くはない。

そのオバマ氏は来夏、主要国首脳会議で日本を訪問する予定で、広島はその開催地に立候補している。たとえ他の都市になっても、大統領が広島に立ち寄ることは物理的には難しくない。

「大統領が広島に行くのなら、その前に、日本の首相が真珠湾に行くのがよいのでは」。しばらく前、そのようなシナリオが、一部の米政府や日本政府の外交筋で、語られたことがあった。

しかし、現状では、安倍首

相が今回の訪米時に、真珠湾に行くことはなさそうである。ある日本のベテラン外交官は「日米関係はこの70年、十分に成熟した。さまざまな波紋を呼び起こす動きがよいとは限らない」と話す。

◇

外交関係者の懸念の一つは、中国や韓国の出方である。首相が真珠湾に行ったら献花した場合、中国は「南京になぜ来ないのか」と言う可能性がある。米国の間に和解の献花が実現しても、関係のこじれている中国や韓国との和解をどうするか。

2年前、ドイツ短期留学中に、ドイツ人の歴史学者と和解について議論した。彼は「ドイツに比べて日本の状況が難しいのは、隣の中国に自己批判の精神がほとんどないこと」と話した。中国共産党は、国内の民衆からの体制批判をかわすために、日本批判を必要としている、と。

日本の「加害責任」は大きい。日本と隣国との和解は、ドイツと隣国より難しい条件がいくつもあつた。

面識のない松尾さんに電話をしてみた。81歳のジャーナリストは、熱く語った。

「日本と中韓との関係改善は、米国も望んでいる。首相の真珠湾への献花はその一歩となる」。松尾さんは、希望を捨てていない。

(アメリカ総局長)